

乳腺外科

【診療活動の基本】

乳腺疾患の専門スタッフを中心に、形成外科、放射線科、病理診断部、健診部、緩和ケア部門などと連携しながら、乳がんを中心とした疾患の診断と治療を行っている。

画像診断では最近導入した最新の3テスラーMRIの極めて精度の高い画像解析により、術前に乳癌の切除範囲を以前よりかなり正確に診断できるようになった。エコー下マンモトーム生検は病理診断上欠くことのできない診断方法となっているが、当院でも本法により乳がんを4つのサブグループに正確に分類し、治療方針を決定している。

治療に関しては本年度は術前化学療法および術前ホルモン療法を積極的に取り入れ、再発防止や乳房温存療法率の向上を目指している。さらに本年度から皮膚温存乳腺全摘後に組織拡張器の同時留置、シリコンによる乳房再建術を形成外科の協力の下に開始し、症例を重ねている。再発乳がんに対する治療は原則として4つのサブグループ別に施行し、体に優しくかつ奏効率の高い治療法を選択している。度重なる治療にもかかわらず回復が困難な再発患者に対しては緩和ケアチームを結成し、疼痛制御、精神看護に当たっている。

【診療スタッフ】

山内清明（部長）：昭和55年神戸大学卒 京都大学医学博士

日本乳癌学会乳腺専門医、評議員

日本外科学会専門医、指導医

日本がん治療認定医機構暫定教育医

検診マンモグラフィー認定読影医

京都大学医学部臨床教授

高原祥子（副部長）：平成3年京都大学卒 京都大学医学博士

日本乳癌学会乳腺専門医

日本外科学会専門医

検診マンモグラフィー認定読影医

ICD（インフェクション コントロール ドクター）

萩原里香（医員）：平成17年島根医科大学卒

日本外科学会専門医

検診マンモグラフィー認定読影医

多久和晴子（医員）：平成17年島根医科大学卒

検診マンモグラフィー認定読影医

稲本俊（非常勤）：昭和46年京都大学卒 京都大学医学博士

日本乳癌学会乳腺専門医

日本外科学会専門医、指導医

京都大学医学部臨床教授

鳥井雅恵（非常勤）：平成13年滋賀医科大学卒

日本乳癌学会認定医

日本外科学会専門医

検診マンモグラフィー認定読影医

【診療実績】

外来延患者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
1378	1244	1352	1368	1246	1340	1252	1184	1149	1122	1055	1245	14935

入院延患者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
188	186	188	226	230	286	248	202	252	245	227	225	2703

化学療法件数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
143	116	116	99	103	131	146	136	135	123	132	150	1530

センチネルリンパ節生検件数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
14	7	5	10	6	8	4	9	10	2	4	7	86

全身麻酔手術件数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
17	12	11	20	13	11	7	12	15	1	8	12	139

局所麻酔手術件数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
5	4	6	4	6	10	2	2	2	2	4	4	51

乳癌手術件数 122件

乳房温存療法件数 104件 (乳房温存率 85%)

術前化学療法件数 10例 (完全奏効率 40%)

エコー下マンモトーム件数 120件

【研究実績】論文発表

1. Masakazu Toi, Eric P. Winer, Takashi Inamoto, John R. Benson, John F. Forbes, Michihide Mitsumori, John F.R. Robertson, Hironobu Sasano, Gunter von Minckwitz, Akira Yamauchi, and V. Suzanne Klimberg; on behalf of the 2009 Kyoto Breast Cancer Consensus Conference panelists. Identifying gaps in the locoregional management of early breast cancer: Highlights from the Kyoto Consensus Conference. Ann Surg Oncol 2011 in press.

【研究実績】学会発表

1. 多久和晴子、萩原里香、稲本俊、山内清明 診療におけるデータベースの現状：第9回京都乳癌コンセンサス会議 2010.5.8
2. 多久和晴子、萩原里香、稲本俊、山内清明 ビスフォスフォネート製剤を用いて治療を行った転移性乳癌患者78例の検討：第18回日本乳癌学会学術総会 2010.6.24
3. 山内清明、紺谷桂一、中北慎一 高感度乳癌腫瘍マーカーの開発：第18回日本乳癌学会学術総会 2010.6.24
4. 多久和晴子、萩原里香、稲本俊、山内清明 当科での局所制御の現状：379例の検討：第60回京滋乳癌研究会 2010.9.4

4. 多久和晴子、萩原里香、山内清明 乳腺疾患の予防と早期診断、治療の情報について : HWMC と北野病院共同開催健康セミナー(女性のためのセミナー) 2010. 10. 23
5. 山内清明、萩原里香、多久和晴子、中北慎一 検診で利用可能な高感度乳癌腫瘍マーカーの開発 第 48 回日本癌治療学会学術集会 2010. 10. 28
6. 萩原里香、稲本俊、多久和晴子、山城大泰、山内清明 異時性体側乳癌 20 症例に関する検討 第 48 回日本癌治療学会学術集会 2010. 10. 28
7. 多久和晴子、萩原里香、山内清明 外科的切除を行った乳癌患者 378 例の検討 第 48 回日本癌治療学会学術集会 2010. 10. 28
8. 萩原里香、稲本俊、多久和晴子、山城大泰、山内清明 当院における乳癌脳転移 25 症例の subtype と生存期間の検討 第 8 回日本乳癌学会近畿地方会 2010. 12. 4
10. 多久和晴子、萩原里香、山内清明 HER2 陽性乳癌に対し補助化学療法として FEC75+Herceptin を導入した 7 例の検討 第 61 回京滋乳癌研究会 2011. 3. 12